

製品名: uPA ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab19636**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:20000-1:40000

分子量

抗原情報

遺伝子名	PLAU
別名	PLAU; Urokinase-type plasminogen activator; U-plasminogen activator; uPA
遺伝子 ID	5328.0
SwissProt ID	P00749
免疫原	抗血清はヒト uPA 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 190-239

背景

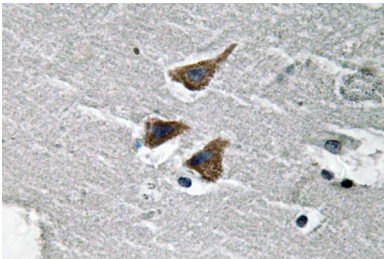
この遺伝子は、プラスミノゲンをプラスミンに変換する分泌型セリンプロテアーゼをコードしています。コードされているプレプロタンパク質は、タンパク質分解によって A 鎖および B 鎖のポリペプチド鎖を生成します。これらの鎖は、単一のジスルフィド結合

を介して会合し、触媒的に不活性な高分子量ウロキナーゼ型プラスミノゲン活性化因子 (HMW-uPA) を形成します。HMW-uPA はさらに触媒的に活性な低分子量ウロキナーゼ型プラスミノゲン活性化因子 (LMW-uPA) へと処理されます。この低分子量型は、ウロキナーゼ型プラスミノゲン活性化因子受容体に結合しません。この遺伝子の変異は、ケベック血小板疾患および晩発性アルツハイマー病と関連している可能性があります。選択的スプライシングによって複数の転写バリエーションが生じ、そのうち少なくとも1つはタンパク質分解によって処理されるアイソフォームをコードしています。 [RefSeq 提供、2016年1月],触媒活性: プラスミノゲン中の Arg-|-Val 結合を特異的に切断し、プラスミンを形成する。 ,機能: 酵素原プラスミノゲンを特異的に切断し、活性酵素プラスミンを形成する。 ,オンライン情報: ウロキナーゼの項目,医薬品: アボキナーゼ (アボット社) の名称で入手可能。肺塞栓症 (PE) において線溶を開始させるために使用される。血栓溶解性疾患の治療に臨床的に使用されています。 ,PTM: Ser-158 および Ser-323 のリン酸化は接着促進能を阻害しますが、受容体への結合には影響しません。 ,類似性: ペプチダーゼ S1 ファミリーに属しません。 ,類似性: EGF 様ドメインを1つ含みます。 ,類似性: クリングドメインを1つ含みます。 ,類似性: ペプチダーゼ S1 ドメインを1つ含みます。 ,サブユニット: 高分子量型と低分子量型があります。それぞれ A 鎖と B 鎖の2つの鎖で構成されています。高分子量型は長鎖 A 鎖を含み、これが切断されて短鎖 A 鎖になります。LRP1B に結合し、結合後に内部移行と分解が起こります。MRC2 と相互作用します。PLAUR と相互作用します。 ,組織特異性: 前立腺および前立腺癌で発現します。 ,

研究分野

補体と凝固カスケード;

画像データ



パラフィン包埋ヒト脳組織における uPA 抗体の免疫組織化学分析。